

法学部A方式Ⅰ日程・文学部A方式Ⅱ日程・経営学部A方式Ⅱ日程

3 限 選 択 科 目 (60分)

科 目	ページ	科 目	ページ
政治・経済	2～20	日 本 史	22～36
世 界 史	38～56	地 理	58～68
数 学	70～72		

〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 試験開始後の科目の変更は認めない。
4. **数学**は志望学部・学科によって解答する問題が決まっている。問題に指示されている通りに解答すること。指定されていない問題を解答した場合、採点の対象としないので注意すること。なお、以下の注意事項も参照すること。
 - ・解答を導く途中経過も書くこと。
 - ・解答はおもて面に記入すること(裏面は採点の対象にならない)。
 - ・その他、解答用紙に記載された指示にしたがい解答すること(この指示どおりでない場合は採点の対象としない)。
 - ・定規、コンパス、電卓の使用は認めない。
5. マークシート解答方法については以下の注意事項を読みなさい。

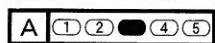
マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

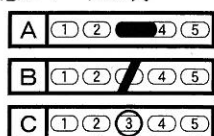
記入上の注意

1. 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



} 枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

(日 本 史)

〔I〕 つぎの1・2の文章を読んで、下記の問いに答えよ。

1. 旧石器時代・縄文時代の人びとは自然の恵みをもとにして採集・狩猟を中心とする生活を送っていたが、弥生時代になると大きな変化が生じた。食料生産が本格的に始まることによって、それにとまなう生活の仕組みが成立したのである。^a 竪穴住居や平地式建物、高床倉庫などによって構成される集落には大規模なものが各地にあらわれ、周囲に深い濠や土塁をめぐらした環濠集落もみられる。集落では豊かな収穫を祈願し、収穫に感謝する祭祀がとり行われるようになった。この時代には武器も出現し、集団同士の戦いがはじまったことが知られている。争いのなかで、強力な集落は周辺の集落を統合していき、各地に首長を中心とした「クニ」とよばれる政治的なまとまりを形成していった。『漢書』^bや『後漢書』にみられる倭人の姿からは、当時の首長たちが自らの集団を代表して中国王朝に接触を試みていたことがみてとれる。また、『魏志』^c倭人伝によると、邪馬台国の内部に支配階級の「大人」と被支配階級の「下戸」といった身分差が存在しており、倭人社会の中には一定程度の統治組織や税制、刑罰制度が存在していたことも記されている。

2. 古墳時代には近畿地方を中心として、列島の広い範囲に^d前方後円墳が造営され、首長たちの政治連合が形成されていたものと考えられており、これをヤマト政権とよんでいる。支配者である豪族と民衆の生活が分離し、豪族は自らの生活拠点として民衆の住む集落から離れた場所に、環濠や柵列をめぐらせた居館を営んだ。これに対して民衆の住む集落には環濠などはなく、複数の竪穴住居、平地式建物、高床倉庫などからなる基本的な単位がいくつか集まって構成されていた。ヤマト政権は5世紀から6世紀にかけて支配の仕組みをつくりあげ、大王を中心とする政治経済の仕組みを整えていった。^e 豪族は血縁やその他の関係をもとにした氏(ウジ)とよばれる組織に編成され、氏を単位としてヤマ

ト政権の職務を分担して、大王から姓(カバネ)があたえられた。大王権力の拡大に対する地方豪族の抵抗もあったが、各地で生じた反乱を制圧する過程で、ヤマト政権は直轄領としての屯倉や、名代・子代の部を設けて支配を強化していった。6世紀になると地方豪族は国造に任じられ、彼らの領域の支配権を保証されたが、そのいっぽうで自らの子女を舍人や采女として出仕させ、特産物を貢進するなど、ヤマト政権に奉仕するようになった。

問1 旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代に特徴的にみられる資料として、最も適切なものを以下の語群のなかからそれぞれ三つずつ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|----------|-------|----------|
| ア 太型蛤刃石斧 | イ 尖頭器 | ウ 埴輪 |
| エ 来迎図 | オ 石棒 | カ 瀬戸焼 |
| キ 馬具 | ク 土偶 | ケ 宋銭 |
| コ 細石器 | サ 蒔絵 | シ 石包丁 |
| ス 銅鐸 | セ 備中鍬 | ソ 石皿 |
| タ 盧舎那仏 | チ 須恵器 | ツ ナイフ形石器 |

問2 下線部 a について、弥生時代の主要な遺跡として**不適切なもの**を以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|--------------|-----------------|
| ア 楯築墳丘墓(岡山県) | イ 荒神谷遺跡(島根県) |
| ウ 垂柳遺跡(青森県) | エ 三ツ寺 I 遺跡(群馬県) |

問3 下線部 b について、以下のア～エの記述のなかから誤っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 『漢書』地理志によると、紀元前1世紀ごろの倭人集団は百余に分かれていた。

イ 『漢書』地理志によると、倭人集団は楽浪郡に定期的に使いを送っていた。

ウ 『後漢書』東夷伝によると、57年に倭の奴国王の使者が楽浪郡において光武帝から印綬を受けた。

エ 『後漢書』東夷伝によると、107年に倭国王帥升等が安帝に160人の生口を献上した。

問4 下線部 c について、以下のア～エの記述のなかから誤っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 『魏志』倭人伝は三国時代についての歴史書『三国志』のうち『魏書』東夷伝に記された倭人に関する記録である。

イ 『魏志』倭人伝には邪馬台国の位置、倭人の風俗や習慣、倭人の歴史などについても記されている。

ウ 『魏志』倭人伝は約2000字の倭人に関するまとまった記述であり、その内容はすべて239年に邪馬台国から派遣された朝貢使が語ったものである。

エ 『魏志』倭人伝に登場する卑弥呼は「鬼道を事とし、能く衆を惑はす」と記され、呪術によって神託を伝える存在であるとされている。

問5 下線部 d について、以下のア～エの記述のなかから誤っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 前方後円墳は東北地方においては古墳時代中期になってから本格的な造営が開始され、この時期においては岩手県の角塚古墳が代表的な事例である。

イ 出現期の前方後円墳のなかで最大の規模を持つのは奈良県の箸墓古墳である。

ウ 前方後円墳の埋葬施設は、当初は竪穴式石室や粘土槨など竪穴系のものであったが、後に横穴式石室が多くなった。

エ 前方後円墳をはじめとする古墳は各地の首長たちの共通の墓制としてつくり出されたものであり、古墳の出現にさきだって広域の政治連合が形成されていたものとみられている。

問6 下線部 e について、以下のア～エの記述のなかから誤っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 地名を氏の名とした有力豪族に臣姓があたえられ、職掌を氏の名とした有力豪族に連姓があたえられることが多く、これらの豪族から大臣・大連が任じられて中央政治の中樞を担った。

イ 中央の有力豪族には君、地方豪族には直の姓があたえられることが多かった。

ウ 姓の用例としては、出雲の岡田山1号墳に副葬された大刀銘文に「各ぬか(額)田部臣」とあり、6世紀代にさかのぼることが確実とみられている。

エ ヤマト政権の様々な職務をになった伴造は、伴や品部とよばれる職業集団を統率した。

問7 下線部 f について、つぎのア～エのなかから名代・子代に該当しないものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 長谷部 イ 春日部 ウ 刑部 エ 史部

〔Ⅱ〕 つぎの文章を読んで、下記の問いに答えよ。

創建されて以来、長い年月を経た寺院には、さまざまな時代の文化遺産が存在する。たとえば、奈良の東大寺や興福寺には天平文化を代表する仏像や建築物があるだけではない。鎌倉時代の文化を代表する仏像や建築物ものこされている。それは^a12世紀の末にこれらの奈良の寺院が焼失したのち、それぞれ大規模に再建^bされ、伽藍全体が復興されたからである。

東大寺の復興事業は、中国の建築技法や鑄造技術も取り入れて推進された。その^c大仏殿落慶供養には、源頼朝も多数の武士を従えて参列した。

^d藤原氏の氏寺とされていた興福寺の場合は、摂関家をはじめとする藤原氏全体の支援で復興された。興福寺は平安時代から全国有数の大寺院に発展し、大和国に強い支配力をもっていた。たとえば、摂関家の当主であった藤原忠実は息子の^e忠通と対立して敗北したが、その事件の最後にはこの興福寺に頼ろうとしている。興福寺の強みは鎮守神が藤原氏の氏神であることにあった。興福寺の僧侶たちは、^f御神体である鏡を取り付けた榊(神木)をおしたてて強訴をおこなったので、貴族はその神威を恐れざるをえなかった。鎌倉幕府はこのような興福寺を尊重し、大和国には守護を置かなかった。室町幕府も大和国守護を興福寺に委ねている。興福寺は多数の荘園や座の本所であり、猿楽の大和四座も興福寺に属する座であった。南都復興に活躍した慶派と呼ばれる^g奈良仏師も興福寺を拠点とした。

一方、奈良の寺院のなかでも、鎌倉時代になって急激に興隆したのは西大寺である。西大寺は奈良時代に創建され、平安時代に衰微したが、叡尊によって再興された。叡尊は真言と戒律を重んじる真言律宗を開き、その教説は天皇から庶民^hにいたるまで、多くの人々の帰依を受けた。しかし、戦国時代には衰微したようである。西大寺の所蔵する叡尊像は、叡尊の死後ほどなくして制作されたものである。きわめて個性的、写実的な印象を与える木彫作品である。

問1 下線部 a について、東大寺にのこる鎌倉時代の仏像・建築物を下記の語群 A から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

問2 下線部 a について、興福寺にのこる鎌倉時代の仏像・建築物を下記の語群 A から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

[語群 A]

- | | | |
|----------|-----------|--------|
| ア 八部衆像 | イ 転害門 | ウ 天灯鬼像 |
| エ 正倉院宝庫 | オ 戒壇院四天王像 | カ 法華堂 |
| キ 僧形八幡神像 | ク 十大弟子像 | |

問3 下線部 b について、12世紀末に興福寺や東大寺が焼失した事件はどのようないきさつで起きたのか、その事情を80字以内で説明せよ。句読点も1字に数える。算用数字は1マスに2字記入してもよい。

下書き用(横書き, 20字×4行=80字)→

問4 下線部 c の中国の建築技法や鑄造技術に関係する人物を以下のア～エのなかから一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| ア 裴世清 | イ 陳和卿 | ウ 李舜臣 | エ 朱元璋 |
|-------|-------|-------|-------|

問5 下線部 d の東大寺大仏殿について、被災する以前の、天平創建以来の大仏と大仏殿を描いたものではないかといわれる画面をもつ絵巻物がある。それは大和国(河内国との国境付近)のある寺の縁起を主題とする絵巻物であるが、その絵巻物を以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 粉河寺縁起絵巻

イ 石山寺縁起絵巻

ウ 信貴山縁起絵巻

エ 北野天神縁起絵巻

問6 下線部 e について、忠実はもう一人の息子を擁護して忠通と対立したのであるが、その事件を以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 保元の乱

イ 治承・寿永の乱

ウ 平治の乱

エ 鹿ヶ谷の陰謀事件

問7 下線部 f について、興福寺の鎮守とされた神社を以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 日吉神社

イ 石清水八幡宮

ウ 伊勢神宮

エ 春日神社

問8 下線部 g について、以下のア～エのなかから誤っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 大和四座はともに能楽の流派として、現代までその名が継承されている。

イ 猿楽能は雅楽から発展したものであり、謡と舞と管絃の演劇であった。

ウ 世阿弥は猿楽能の役者であり、脚本家であるとともに、能の芸道論も著した。

エ 足利義満は猿楽能を愛好し、観阿弥・世阿弥の父子を特別に後援した。

問9 下線部 h の真言律宗の寺院を以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 久遠寺

イ 永平寺

ウ 極楽寺

エ 清浄光寺

〔Ⅲ〕 つぎの1～4の文章を読んで、下記の問いに答えよ。

1 尚巴志によって統一された琉球王国は、明と密接な関係を結んだ。また、朝鮮・日本などの東アジアと東南アジア諸国とを結ぶ交易路の要としても中継貿易を発展させた。日本へも [①] の坊津や筑前の博多に琉球船が来航した。しかし、豊臣秀吉による朝鮮侵略のための兵糧調達の諾否をめぐる尚氏と豊臣氏・島津氏との緊張が高まった。17世紀の初頭になると、島津氏は徳川家康の許可を得て琉球を侵略し、琉球王国内で検地を実施した。こうして琉球王国は、国王の代が替わるときに使節を、また、將軍の代が替わるときにも使節を江戸に派遣することになった。だが一方で、琉球王国と明との関係も従来のまま継続された。すなわち、尚氏は、島津氏の侵略後も明・清から国王の代が替わるたびに [②] を迎え、また頻繁に進貢船を送って朝貢貿易をおこなった。

2 15世紀の中期、北陸や畿内から蝦夷地南部の松前地方に渡った和人の商人は、交易品をめぐるアイヌと対立した。和人の圧迫にたえかねて、アイヌは大首長を先頭として立ち上がったが、これを鎮圧したのが [③] である。この子孫は豊臣秀吉から蝦夷島主の待遇を受け、その後、松前氏と改姓した。松前氏は江戸幕府の成立後も大名と同様に遇され、中国の絹織物(蝦夷錦)や昆布・鱈・鮭などの海産物、千島列島産のラッコの毛皮などの特産物をアイヌと独占的に交易する特権を得た。また、松前氏の財政は、田や畑から徴収する本途物成ではなく、アイヌとの交易の権益に依存しており、この特権を家臣にも配分する [④] を実施した。こうした事情の中で和人の商人はアイヌからより多くの利益を得ようと海産物の価格を強引に引き下げて買い取った。これに対して17世紀後半、アイヌは、再び大首長 [⑤] に率いられて戦いをおこした。しかし、松前氏は、これを鎮圧し、蝦夷地支配を拡大した。

- 3 朝鮮通信使は室町時代から来日していたが、豊臣秀吉の朝鮮侵略によって中⁽²⁾断された。しかし、江戸幕府成立後、徳川家康は、対馬藩主の宗氏を通じて朝鮮に国交回復を働きかけた。朝鮮も女真族による北方からの征服の脅威があり、日本との関係を安定化させて再侵略の不安を取り除いておきたいと考えた。この結果、朝鮮から使節が来日して国交が回復した。朝鮮と宗氏との条約も成立⁽³⁾した。また、日本からも朝鮮国王の即位を慶賀する使節を派遣したが、朝鮮では再侵略の危険性を考え、使節を にとどめて上京を牽制した。
- 4 1600年、ヨーロッパの商船 が九州に漂着した。家康は、この乗組員⁽⁴⁾であったイギリス人とオランダ人を外交・貿易顧問とした。これによって両国の商船があいついで来日して貿易を開始した。新教国であったイギリスやオランダの商人は旧教国であるポルトガル・イスパニアが日本を征服すると宣伝し、これらを日本貿易から排除しようとした。警戒を強めた幕府は、1612年、直轄領に禁教令を出し、翌年には、これを全国に拡げて、宣教師や改宗しない多くの信者を国外に追放した。また、貿易統制を次第に強め、將軍 は、中国船以外の外国船の寄航地を平戸と長崎に限る政策を実施した。このうち幕府は、イスパニア船の来航を禁止し、奉書船以外の海外渡航を制限し、次いで日本人の海外渡航と在外日本人の帰国を全面的に禁止して鎖国を完成させていった。

問1 空欄 ① ~ ⑧ に入るもっとも適切な語句を、以下の語群のなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|------------|------------|----------|
| ア 豊後 | イ クナシリ・メナシ | ウ 肥前 |
| エ 薩摩 | オ ディアナ号 | カ 土佐 |
| キ 家康 | ク 家綱 | ケ 家光 |
| コ 朝遣使 | サ 秀忠 | シ コシヤマイン |
| ス 開城 | セ 釜山 | ソ 漢城 |
| タ サン＝フェリペ号 | チ 平壤 | ツ 場所請負制 |
| テ 綱吉 | ト シャクシャイン | ナ 蠣崎氏 |
| ニ リーフデ号 | ヌ 肥後 | ネ 冊封使 |
| ノ 商場知行制 | ハ 安藤(東)氏 | |

問2 下線部(1)の説明として、正しいものを以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 琉球国王は、江戸幕府の将軍が新たに就任すると謝恩使を派遣した。
- イ 琉球国王は、みずからが国王に就任すると江戸幕府の将軍に慶賀使を派遣した。
- ウ 琉球国王は、幕府による直接の監視のもとに謝恩使や慶賀使を江戸へ派遣した。
- エ 慶賀使や謝恩使は江戸へ派遣されるにあたって異国風の風俗を強制された。

問3 下線部(2)の説明として、誤っているものを以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 朝鮮からの使節は、最初の2回を回答兼刷還使と称した。
- イ 朝鮮からの使節は将軍家斉の時期まで続き、その来訪は12回を数えた。
- ウ 回答兼刷還使は朝鮮出兵で日本に連行された人々を朝鮮に連れ帰ることを重要な目的とした。
- エ 朝鮮通信使は、将軍の就任に際して来訪して国書の交換をした。

問4 下線部(3)の説明として、正しいものを以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア この条約は己酉約条と称され、日本の使者は宗氏からの派遣に限られるとした。

イ この条約は己酉約条と称され、日本の使者は将軍と宗氏からの派遣に限られるとした。

ウ この条約は丁未約条と称され、日本からの使者は将軍と宗氏に限られるとした。

エ この条約は丁未約条と称され、日本からの使者は将軍に限られるとした。

問5 下線部(4)の説明として、正しいものを以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 漂着船の航海士であったウイリアム＝アダムスは朱印船貿易に従事し、平戸のイギリス商館の開設に尽力した。

イ 漂着船の水先案内人であったウイリアム＝アダムスは、朱印船貿易に従事し、平戸のオランダ商館の開設に尽力した。

ウ 漂着船の航海士であったヤン＝ヨーステンは、平戸のオランダ商館の開設に尽力した。

エ 漂着船の水先案内人であったヤン＝ヨーステンは、平戸のイギリス商館の開設に尽力した。

〔IV〕 つぎの文章を読んで、下記の問いに答えよ。

明治政府は、近代化を進めるための財源を確保するために地租改正^(a)に着手した。これにより財政の基礎を安定させつつ、政府は、殖産興業を進めた。が初代の卿(長官)となった内務省と、^(b)が初代の卿となった工部省が中心となり、近代産業の育成が行われた。そのための1つの施策として、官営工場が全国各地に設立された。

一方で、銀行制度の整備も進められた。国立銀行条例が公布され、これに基づき国立銀行が設立された。1880年には貿易金融^(c)を目的とした銀行が開業した。

国立銀行の設立数は、発行銀行券の正貨兌換義務を廃止したあと増加したが、それは不換紙幣の増発を引き起こした。また、西南戦争^(d)の戦費調達も不換紙幣増発の原因となった。このような不換紙幣の増加は、^(e)を引き起こした。一方で、毎年の輸入超過のため、正貨保有高が減少した。

このような状況に対して、大蔵卿の松方正義は、財政を安定させるための政策^(f)を実施した。松方正義による一連の政策は、資本主義経済^(g)の基盤を形成した。このようななか、軽工業^(h)を中心に産業革命が始まった。

問1 下線部(a)の地租改正に関する説明として、正しいものを以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 地租改正を機に、小作人が地主に納める小作料が金納になった。
- イ 地租は地価の3%であったが、1877年に1%に軽減された。
- ウ 国税に占める地租の割合は、1878年に80%を下回った。
- エ 1873年に小作人に発行された地券は、壬申地券と呼ばれた。

問2 下線部(b)の殖産興業が進められた時期に行われた事業に関する説明として、**誤っているもの**を以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 1872年に、イギリス人モレルの指導により、新橋・横浜間に鉄道が開通した。

イ 1871年に、長崎・上海間に海底電線が敷設された。

ウ 海運業を発達させるため、政商の財閥化が促進された。

エ 1873年に、郵便の全国均一料金制が実施された。

問3 空欄 , に入るもっとも適切な人物を、以下のア～カのなかからそれぞれ一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 後藤象二郎 イ 大久保利通 ウ 岩倉具視 エ 板垣退助

オ 井上馨 カ 伊藤博文

問4 下線部(c)の国立銀行条例の公布に中心的な役割を果たした人物が、イギリス製の紡績機および蒸気機関を導入し、1882年に設立した会社の名称を、漢字6文字で解答欄に記せ。

問5 下線部(d)の銀行の名称を漢字6文字で解答欄に記せ。

問6 下線部(e)に関連して、征韓論争に敗れて下野した人物として、**誤っているもの**を以下のア～エのなかから一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 木戸孝允 イ 江藤新平 ウ 副島種臣 エ 板垣退助

問7 空欄 に入るものとして、**誤っているもの**を以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 物価の高騰 イ 歳入の実質的減少

ウ 紙幣価値の下落 エ 生糸価格の暴落

問8 下線部(f)に関連して、松方正義のもとで行われた政策に関する説明として、正しいものを以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 自作農の没落を防ぐために、地租の課税基準である地価を引き下げた。
- イ 軍事、造幣、通信などの官営事業の払下げを推進した。
- ウ 歳入の増加をはかるために増税を行った。
- エ 歳出の増加を抑制するために軍事費を削減した。

問9 下線部(f)に関連して、松方正義のもとで行われた銀行制度の改革に関する説明として、正しいものを以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 1884年に、日本銀行法に基づいて日本銀行を設立した。
- イ 国立銀行を、銀行券発行権のない普通銀行に転換した。
- ウ 日本銀行が、1885年から金兌換銀行券の発行を開始した。
- エ 1886年に不換紙幣の金・銀兌換を開始した。

問10 下線部(g)に関連して、日本最初の恐慌が起こった年を以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 1886年 イ 1890年 ウ 1901年 エ 1907年

問11 下線部(h)に関連して、誤っているものを以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 1890年に、綿糸の生産量が輸入量を上回った。
- イ 1900年に、綿布の輸出量が輸入量を上回った。
- ウ 1897年に、綿糸の輸出量が輸入量を上回った。
- エ 1894年に、器械製糸の生産量が座繰製糸の生産量を上回った。

問12 下線部(h)に関連して，1897年に小型の力織機を考案し，翌年に特許を取得した人物を以下のア～エのなかから一人選び，その記号を解答欄にマークせよ。

ア 藤田伝三郎 イ 臥雲辰致 ウ 大倉喜八郎 エ 豊田佐吉

(白 紙)